



慶應義塾大学ビジネス・スクール

ケースメソッドによる討論授業 — 価値観とスキル —

5

目 次

1. ケースメソッドとは何か	
2. 討論授業の基本原則	
3. 学ぼうとする気持ちを削ぐ授業	10
4. 教え方を磨く	
5. 質疑応答	

1. ケースメソッドとは何か

15

討議する授業とその効果

ケースメソッドは授業のやり方の一つである。この授業のやり方をする講師は、受講生と一緒にになってクラス全体で討議、すなわちディスカッションしながら授業を進める。ディスカッションは、教材資料（経営の事例が記述された冊子、ケース）をもとに行う。受講生はケースから考えられる問題について様々な角度から意見を出しディスカッションする。この時、講師は「ディスカッション・リーダーシップ」をとることで、クラスの議論が有益な展開になるように論点の流れの舵をとる。講師は討議の「振り付け師」でもある。

20

言うまでもなく、ケースメソッドは米国のハーバード大学ビジネススクールで20世紀の初頭に開発された教育方法である。今日、世界の多くの教育機関が、経営教育のみならず、さまざまな分野の実践的な教育でケースメソッドを採用している。わが国では、筆者の教える慶應義塾大学ビジネススクールがケースメソッド授業をその中心に据えている代表的な教育機関である。

25

このノートはケースメソッド授業の価値観とスキルについて概説するために慶應義塾大学ビジネススクール教授高木晴夫が作成した。内容の多くは1999年度「ケースメソッド教授法特論」のクラスでの講義、討議、および質疑をもとにしており、このクラスの受講生に謝意を表す。

©2000 慶應義塾大学ビジネススクール

30